

～令和6年度ユース審判活動報告～

## JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会 決勝戦を終えて(R6. 12. 29)

○決定戦 @鹿児島県鹿児島市の白波スタジアム

東京ヴェルディジュニア(東京)VS バディーSC(神奈川)3-2(延長1-0)

主審 財津 友誠(東稜高3年)

今回、全日本U-12サッカー選手権大会に参加させていただきありがとうございました。

9地域32名の審判員と地域指導者で3回の事前研修を経て今大会に挑みました。リスペクトワークショップでは、私達も改めてリスペクトについて考え、サッカーにおけるリスペクトの大切さを選手たちに伝えることができたと思います。試合では、どのチームも地域予選を勝ち抜いた素晴らしいチームで、一つ一つの試合が決勝戦のような白熱した試合でした。そのような試合を担当できたことを非常にありがたく思います。

1日目のミーティングで伝えられた、選手のプレーを最大限引き出すジャッジをするために自分で映像を確認し、指導者の方から伝えられた事を再確認するなど、オフザピッチでも万全の準備をし、試合にマッチした判定・コントロールができたと思います。

決勝戦の割り当てをいただいた時は、緊張はありましたが、不安はなく、32名の審判員や指導者、大会関係者など全員で作りに上げた大会を締めくくれる、喜びと自信でいっぱいでした。特に決勝戦が滞りなく進んだのは、前日の試合までで仲間が作り上げてくれた基準や審判に対する信頼があったからだと感じています。各地から集まった個性豊かな審判員たちと過ごした時間は楽しく充実し、かけがえのないものでした。

最後に、このような機会を与えてくださり、支えていただいたJFA、鹿児島県サッカー協会、熊本県サッカー協会、サッカー関係者及び指導者の皆様に心より御礼申し上げます。







